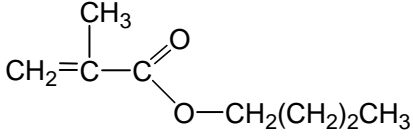


## 化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2001 - 49	官報公示 整理番号	2 - 1039(化審法) 1 - 319(化学物質管理促進法)	CAS 番号	97 - 88 - 1
名 称	メタクリル酸 <i>n</i> -ブチル 別名： <i>n</i> -ブチルメタクリレート		構 造 式		
分 子 式	C <sub>8</sub> H <sub>14</sub> O <sub>2</sub>		分 子 量	142.20	
<p>市場で流通している商品(代表例)<sup>1)</sup></p> <p>純 度 : 99%以上</p> <p>不純物 : メタクリル酸イソブチル</p> <p>添加剤または安定剤：ヒドロキノンモノメチルエーテル</p>					
<p>物理・化学的性状データ</p> <p>外 観：無色液体<sup>2)</sup></p> <p>融 点：-75 (凝固点)<sup>2)</sup></p> <p>沸 点：160 <sup>2)</sup></p> <p>引 火 点：41 <sup>3)</sup></p> <p>発 火 点：290 <sup>3)</sup></p> <p>爆発限界：2～8%(空気中)<sup>3)</sup></p> <p>比 重：d<sub>4</sub><sup>20</sup> 0.8936<sup>2)</sup></p> <p>蒸気密度：4.90(空気 = 1)</p> <p>蒸 気 圧：282 Pa(2.12 mmHg)(25 )<sup>2)</sup></p> <p>分配係数：log Pow ; 2.26～3.01(実測値)<sup>3)</sup>、2.75(計算値)<sup>4)</sup></p> <p>加水分解性：水中で加水分解を受け、メタクリル酸及び 1-ブタノールを生じる</p> <p>解離定数：文献なし</p> <p>スペクトル：主要マススペクトルフラグメント m/z 41(基準ピーク, 1.0)、69(0.86)、87(0.56)<sup>5)</sup></p> <p>吸脱着性：土壌吸着係数 K<sub>oc</sub> ; 880<sup>2)</sup></p> <p>粒度分布：該当せず</p> <p>溶解性：水に不溶<sup>2)</sup> アルコール、エーテル、酢酸エチルなどの有機溶媒に易溶<sup>2)</sup></p> <p>換算係数：1 ppm = 5.92 mg/m<sup>3</sup> (気体, 20 ) 1 mg/m<sup>3</sup> = 0.169 ppm</p>					

## 総合評価

### 1) 危険有害性の要約

本物質のヒトに対する有害性の報告はなされていない。

実験動物では、眼及び皮膚に対する軽度の刺激性が報告されている。変異原性・遺伝毒性では、*in vitro*、*in vivo* 試験共に陰性であり、発がん性に関する報告はない。生殖・発生毒性試験では、経口投与で母動物に黄体数、着床数の減少など生殖能の低下を誘発するほか、吸入暴露または腹腔内投与で胎児の発育阻害、催奇形性が報告されている。

本物質は環境中に放出された場合、水圏では生分解されやすい。大気中では OH ラジカルとの反応が関与しており、半減期は 1 日以内と計算される。本物質は環境中に放出された場合、水圏では生分解されやすく、大気中でも速やかに分解されると予想される。環境省のモニタリングでは検出されたことがない。水圏環境生物に対する急性毒性は、魚類に対しては強いが、藻類及び甲殻類に対しては弱い。

### 2) 指摘事項

- (1) 実験動物で生殖能の低下、胎児の発育阻害、催奇形性が報告されている。
- (2) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料(2001).
- 2) Hazardous Substances Data Bank(HSDB), U.S. National Library of Medicine(2001).
- 3) IPCS, International Chemical Safety Cards(1989).
- 4) KowWin ver 1.66, Syracuse Research Corporation(2001).
- 5) NIST Library of 54K Compounds(1998).